

現代に継承される出雲流神楽



ユネスコ無形文化遺産 SADA SHINNOU

佐陀神能

Sacred Dance at Sada Shrine.

会場

佐太神社境内「舞殿」

松江市鹿島町佐陀宮内 73

◆松江しんじ湖温泉から車で約15分◆玉造温泉から約30分

2022年特別公開

公開日及び演目

公開日	4/30	5/14	6/11	7/9	9/10
演目	七座 散供 (15分)	けんまい 剣舞 (25分)	まよめ 清目 (20分)	ごぞ 御座 (15分) やおとめ 八乙女 (25分)	かんじょう 勧請 (15分) たくさ 手草 (25分)
	式三番 式三番 (55分)	—	—	—	—
	神能 まきりめ 真切女 (30分)	おおやしろ 大社 (35分)	えびす 恵比寿 (25分) たけみかつち 武甕槌 (35分)	やまとだけ 日本武 (40分)	やえがき 八重垣 (35分)
番外	—	さんじんさい 山神祭 (30分)	—	—	—

毎回土曜日《20時～21時30分》

※演目内容によっては10分程度遅くなることがあります。

※都合により演目に変更になる場合があります。

※佐陀神能の会場での写真撮影はできません。あらかじめご了承ください。

募集人数

各100名〈予約制〉

※定員に満たない場合は当日可

席料

〔個人〕1,200円(中学生以下無料)

〔団体〕1,000円(20名以上)

※観覧の際にはマスク着用、フィジカル・ディスタンスの確保をお願いします。

※新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては中止となる場合があります。

ご予約方法

◎下記申込先までお電話にてご希望の日をご予約ください。

※個人受付：実施日の前日16時まで※団体受付：実施日の7日前まで

〈お支払い方法〉

個人 [現金] [銀行振込] [webクレジットカード]

※現金でのお支払窓口は「一畑トラベルサービス松江駅前営業所」のみとなります。

〈営業時間〉9:00～18:00(土・日・祝・年末年始 休業)

※当日、現地でのお支払いは受付けておりません。予めご了承くださいませ。

団体 (一社)松江観光協会より後日、請求書を発送させていただきます。

※お客様のご都合によるお支払い後のキャンセル・払い戻しは一切できません。

※日程の変更は可能です。お問い合わせください。

※各地から佐太神社までは、お客様ご自身で移動をお願いいたします。

タクシー等のお手配をご希望の場合はご予約の際にご相談ください。

※路線バスの臨時運行はございません。

〈お申込み・お問い合わせ先〉

株式会社一畑トラベルサービス
ナイスデーツアーセンター

営業時間9:30～17:30(土、日、祝、年末年始 休業)

TEL: 0120-333-556

FAX: 0852-21-0258

〔実施団体〕

(一社)松江観光協会 島根県松江市中原町19

TEL: 0852-27-5843 FAX: 0852-26-6869

E-mail: mail@kankou-matsue.jp

主催 (一社)松江観光協会

後援 佐太神社・島根県・島根県教育委員会

松江市・松江市教育委員会



写真提供：加島義知



荘厳な出雲造りの御本殿三社[佐太神社] (国指定重要文化財)

佐太神社の御由緒

佐太神社は出雲國風土記に「カンナビヤマの麓に座す」佐太大神社または佐太御子社と記されており、延喜式(九条家本)では出雲國二ノ宮と称され、出雲國三大社の一つとして「佐陀大社」と称えられた御社です。

荘厳な出雲造りの御本殿三社(指定重要文化財)に主祭神の佐太大神をはじめ十二柱の神々をお祀りしています。佐太大神は猿田毘古大神と同一神で「導きの神」として知られています。また、八百万の神々がお集まりになる神在祭は出雲の国数社で執り行われているものの中でも、文献上最も古く、かつ祭りの形態も古い形を受け伝えており、「神在の社」といわれ、全国各地から広く信仰を集めております。

◆ 神能

慶長13年(西暦1608年)に佐太神社の神職が京に上り、当時都ではやつていた猿樂、幸若などの形式を用いて創作されたのではないかとされています。神能の演目は、神話や神社の縁起を基にして作られており、現在は十二段(内、中絶しているものが三段)と番外としての二段が継承されています。

◆ 式三番

祝言として舞われるものであり、能楽にある「式三番」と同形式のもので、佐太神社に伝わる式三番は、能楽のものより地方色や古い形式が残ったものとなっています。「千歳」「翁」「三番叟」の順で舞われます。また、謡には祝いの詞や囃子詞などが数多く使われています。

◆ 七座神事

「御座替祭」の際に敷きかえる本殿の莫塵を清めるために執り行われる神事舞です。「剣舞」「散供」「清目」「御座」「勧請」「八乙女」「手草」の七つの舞があり、舞により剣、神、莫塵、小幣、大幣、鈴等の採物を持って舞われます。

神能演目解説

大社 佐太神社の縁起を題材にした演目

《登場する神・人物》
朝廷の臣下、老人(佐太大神の化身)、佐太大神、龍神
《前段》出雲の国佐陀の社には多くの神祕があると聞いた帝の命を受け、朝廷に仕える臣下が佐陀大社(佐太神社)を訪れます。神社で臣下は老人に出会い、神社の縁起(由緒)と神無月の由来を尋ねます。老人は、この地方では神無月ではなく神在月と呼ぶこと、そして神社の縁起について語り、姿を隠します。

《後段》佐太大神が現れ舞を舞います。すると空には黒雲がたなびき、雨風が吹き、音楽が聞こえてくると共に龍神が宝の箱を持って現れます。龍神は大神に宝の箱から龍蛇神を捧げ、空へと帰っていきます。そして、龍蛇神を受け取った大神は、「八百万の神の父母は我なり」と言いながら佐陀大社の社殿へお入りになられます。

武甕槌

国譲り神話を題材とした演目

《登場する人物》
武甕槌命、大己貴命(大国主命・大黒)、武御名方命
《前段》天照大神の命を受けた武甕槌命は、出雲の国に降り立ち大己貴命に国を譲るように迫ります。大己貴命は宮所(出雲大社)を定めることを条件に国を譲ることを承諾します。

《後段》大己貴命が国を譲った事に納得のいかない国津神(武御名方命)は天津神(武甕槌命)に戦いを挑みます。やがて、天津神が勝利し国は治まります。

日本武

日本武尊の東夷征伐を題材にした演目

《登場する神・人物》
日本武尊、倭姫命、東夷
《前段》東夷征伐の勅命を受けた日本武尊は、伊勢神宮の倭姫命を尋ねます。日本武尊は倭姫命から、素戔嗚尊が八岐大蛇を退治した時に、大蛇の尾先から出てきた天叢雲剣と燧石を授かります。

きた天叢雲剣と燧石を授かります。

《後段》駿河の国に着いた日本武尊は、東夷の策略により火攻めに遭います。すると、天叢雲剣が靈力により、周辺の草を薙ぎ払います。そして、日本武尊は燧石で火をつけ東夷征伐に成功します。その後、天叢雲剣は草薙剣と呼ばれるようになり、熱田神宮に納められる事となります。

八重垣

素戔嗚尊の八岐大蛇退治の神話を題材とした演目

《登場する神・人物》
奏人、櫛稲田姫、素戔嗚尊、八岐大蛇
《前段》奏人が現れ、素戔嗚尊が出雲の国斐伊川に天降った時、手撫槌、足撫槌、櫛稲田姫の一家に出会い、暴れる八岐大蛇を治めるために娘を差し出さなければならぬことを聞き、大蛇退治をすることになったという物語を語ります。そして、八重垣を造り、櫛稲田姫をその中に移し、その前に毒酒を置き、素戔嗚尊は大蛇がくるのを待ち構えます。
《後段》八色の雲が立ち起り大蛇が現れます。大蛇が毒酒を飲み弱ったところを見計らった素戔嗚尊は大蛇を退治します。そして、大蛇を切り刻んだ際、尾先を裂き開いたところ天叢雲剣が出てきました。

眞切女

切女命の話を題材とした演目

《登場する神・人物》
法度命に仕える神主、切女命
《前段》法度命に仕える神主が、天照大神の磐戸開きの時に使われた鞆鼓(つづみ)が祀られる鼓の瀧を訪ねます。身を隠されたことにより、世の中が暗闇になつてしまった事を語ります。
《後段》日が暮れると、瀧の岩間から輝く御幣と鼓を持った神が現れ、鼓の由来を語り、自らが切女命であることを名乗り舞を舞い、再び姿を隠します。

